

文部科学省規制に関する評価－平成18年度－の実施について

1. 趣 旨

平成18年度文部科学省政策評価実施計画に基づき、文部科学省の所掌に係る法令に基づく規制の新設・改廃について、評価を実施したものの。

2. 評価の観点

(1) 規制の便益分析

規制を強化することにより得ると見込まれる便益について、直接便益、間接便益に留意しながら分析

(2) 規制の費用分析

規制を新設することにより見込まれる費用について、行政コスト、遵守コスト、社会コスト等の別に留意しながら分析

(3) 想定できる代替手段との比較考量

(4) 規制を見直す条件 等

3. 評価対象及び概要

武力紛争の際の文化財の保護に関する法律(案)

規制の名称	規制の概要	評価結果の概要
○ 武力紛争の際の文化財の保護に関する条約等の的確な実施の確保のための規制	1 被占領地域から流出した文化財の輸入規制等 (規制強化) 2 武力紛争時における文化財保護の特殊標章の使用の一般的禁止(規制強化)	1 我が国が人類の貴重な文化的資産である文化財の国際的な保護に協力し、国際社会から期待されている役割を果たすことができ、また、文化財の流出に対する抑止効果も大きい。 2 平時には特段のコストは発生せず、我が国の文化財を保護する上で大きな効果がある。

4. 評価票の公表

法律案の国会提出前に、政策評価会議において「文部科学省規制に関する評価書－平成18年度－」を決定し、公表。